

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
水上村 (水上村鳥獣被害防止協議会)	水上村	R3-R5	ニホンジカ イノシシ ニホンザル ノウサギ カラス類 アナグマ カワウ アライグマ	侵入防止柵 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	ワイヤーメッシュ柵の設置 L=1,750m シカ 2,339頭 イノシシ 952頭 サル 1頭	水上村 水上村鳥 獣被害防 止協議会	R3	100%	ワイヤーメッシュ柵設置による、シカ・イノシシ等の鳥獣被害の減少 捕獲実績 【捕獲年度毎(4月～3月)】 ○令和3年度 シカ 875頭 イノシシ 300頭 サル 1頭 ○令和4年度 シカ 793頭 イノシシ 300頭 ○令和5年度 シカ 708頭 イノシシ 381頭 サル 1頭	2,900	10,852	-498.3%	13.4	16.8	48.0%	年度毎の捕獲頭数は若干の減少傾向である。実績は被害金額が目標まで届かなかったものの、ニホンジカの被害面積減少については、目標値を上回っている。 シカ被害については山林への被害が大多数を占めており、被害面積の把握状況により実績値が大きく変動してしまっている。 イノシシについては、近年、捕獲数が増え、今まで被害がなかった地域からも被害報告や捕獲が上がっている。生息状況を把握し、計画的な捕獲や計画の見直しが必要となる。	-農作物被害の軽減のため、対象鳥獣の緊急捕獲に取り組まれている。 しかし、ニホンジカ、イノシシによる被害額は、現状値、目標値を上回っている。 このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (船本県南前広域本部陸域部獣農鳥畜普及・振興課 参事 宮崎 俊)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防獲柵を設置さえすれば被害は減るといふ考えは間違っていること、防獲柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取り組む被害ほらを実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 水上村では餌の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な食糧となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防獲柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規研修者等に対するフォローを行っていただきたい。
										207	368	-73.1%	0.2	0.8	-391.8%			
計 3,107										計 11,020	計 -488.1%	計 13.6	計 17.3	計 40.4%				